

(19)日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平6-146508

(43)公開日 平成6年(1994)5月27日

(51)Int.Cl.

E 04 D 13/15
13/06

識別記号 廣内整理番号

U 7416-2E
106 B 7416-2E

F I

技術表示箇所

審査請求 未請求 請求項の数2(全5頁)

(21)出願番号 特願平4-302313

(22)出願日 平成4年(1992)11月12日

(71)出願人 000002174

積水化学工業株式会社

大阪府大阪市北区西天満2丁目4番4号

(72)発明者 相崎 清吾

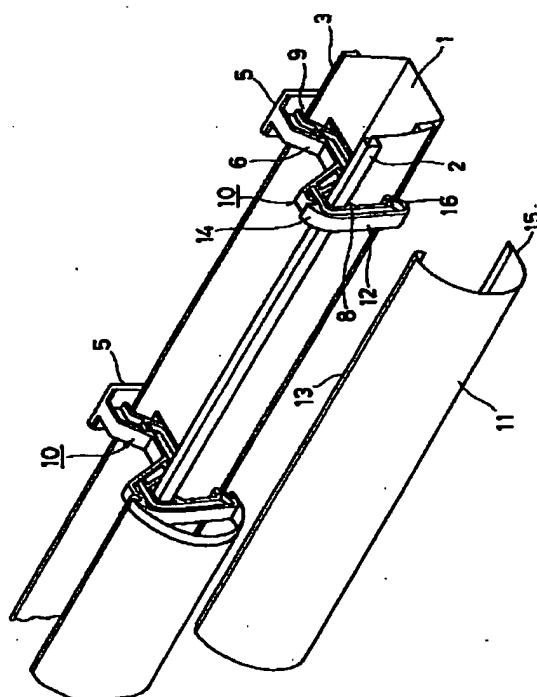
埼玉県越谷市上間久里1481-5

(54)【発明の名称】 化粧材取付け軒樋吊り具

(57)【要約】

【目的】 軒樋は通常の規格品を使用し、化粧材は指定のものを前面に取り付けして、軒先を好みのデザインに容易に対応することができる化粧材取付け軒樋吊り具。

【構成】 建物に取付ける取付け面部5と、取付け面部5から前方に伸びる支持梁体部6と、支持梁体部6の先端から下方に伸びる化粧材取付け部12とよりなり、支持梁体部6の先端近辺と取付け面部5とに軒樋1の両側面の各上縁部分2、3を係止して取付けする軒樋係止突起9と、化粧材取付け部12の上端近辺と下端近辺とに化粧材の上下各縁部分13、15を係止して前面に取付ける化粧材係止突起8、9とを有することを特徴とする化粧材取付け軒樋吊り具10。



1

2

【特許請求の範囲】

【請求項1】 軒樋と化粧材を取付ける化粧材取付け軒樋吊り具であって、建物に取付ける取付け面部と、該取付け面部から前方に伸びる支持梁体部と、該支持梁体部の先端から下方に伸びる化粧材取付け部によりなり、前記支持梁体部の先端近辺と取付け面部とに軒樋の両側面の各上縁部分を係止して取付けする軒樋係止部と、化粧材取付け部の上端近辺と下端近辺とに化粧材の上下各縁部分を係止して前面に取付ける化粧材係止部とを有することを特徴とする化粧材取付け軒樋吊り具。

【請求項2】 化粧材取付け部の前面は取付ける化粧材の内面に当接できる形状であることを特徴とする請求項1記載の化粧材取付け軒樋吊り具。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】この発明は、軒樋と共に化粧材をも取付ける化粧材取付け軒樋吊り具に関するものである。

【0002】

【従来の技術】かつては、建物に取付けた吊金具の半円形の凹部に断面半円形の軒樋を載せ、軒樋の屋外側の上縁を吊金具の端に係止することによって、軒樋を建物に取付けるのが一般的であった。

【0003】しかし、近年は建物の外観が重視され、吊金具が外から見えないように軒樋の内側から係止する吊金具が使用される傾向があり、例えば実開昭61-43322号公報、実開平2-103432号公報に新しい形式の軒樋吊り金具が提案されている。

【0004】図6は上記実開平2-103432号公報に開示された軒樋吊り金具の使用状態を示す断面図である。1は軒樋、2および3は軒樋の上縁部（耳縁）、4は軒樋吊り金具、5は軒樋吊り金具を建物に取付ける取付け面部、6は帯状の支持梁体部、7は軒樋の上縁部を抑える抑え片、8および9は軒樋の上縁部を係止する軒樋係止突起である。

【0005】軒樋吊り金具4の取付け面部5を建物に固定し、軒樋吊り金具4の軒樋係止突起8、9に軒樋1の上縁部2、3を係止することにより、軒樋吊り金具4を外部下方から見えないようにして比較的容易に軒樋1を取付けることができる。

【0006】

【発明が解決しようとする課題】しかしながら、建物の外観を向上させるために、軒樋に対しても種々の外観形状の要望があるが、軒樋1自体の形状を多様化して要望に応えることはコスト的にも大変である。加えて軒樋1の接続部分を隠したい要求が強いこともある、軒樋1の外側に化粧材を取付ける例が出てきつつある。

【0007】しかし化粧材を取付けるための化粧材専用の取付け金具を軒樋吊り金具とは別に建物に取付けることは大変面倒である。また実開平3-89817号公報

には特定の軒樋に特定の化粧材を取付けるための化粧材カバー取付け具が提案されているが、軒樋に化粧材を取付けることは、軒樋の強度面の懸念もある。加えて形状の選択要望の多様化に応えるには種々の形状の組合せを各々対応できるよう種々の形状の化粧材カバー取付け具を準備しておく必要があるため、コスト的にも大変であるといった問題があり、住宅等の軒先デザインの多様化への容易な対応が課題となっていた。

10 【0008】この発明は、上記課題を解消するためになされたもので、軒樋は通常の規格品を使用し、化粧材は指定のものを前面に取り付けして、軒先を好みのデザインに容易に対応させることができる化粧材取付け軒樋吊り具を提供することを目的とするものである。

【0009】

【課題を解決するための手段】このため、この発明に係る化粧材取付け軒樋吊り具は、軒樋と化粧材を取付ける化粧材取付け軒樋吊り具であって、建物に取付ける取付け面部と、該取付け面部から前方に伸びる支持梁体部と、該支持梁体部の先端から下方に伸びる化粧材取付け部によりなり、前記支持梁体部の先端近辺と取付け面部とに軒樋の両側面の各上縁部分を係止して取付けする軒樋係止部と、化粧材取付け部の上端近辺と下端近辺とに化粧材の上下各縁部分を係止して前面に取付ける化粧材係止部とを有することを特徴とする構成によって、前記の目的を達成しようとするものである。

【0010】

【作用】以上の構成により、取付け面部を建物に固定して化粧材取付け軒樋吊り具を建物に取付け、軒樋の両側面の各上縁部分を軒樋係止部に係止することにより、支持梁体部の先端近辺と取付け面部との間に軒樋を取り付くことができる。

【0011】そして、化粧材を化粧材係止部に係止して化粧材の上下各縁部分を化粧材取付け部の上端近辺と下端近辺とに位置させて化粧材取付け軒樋吊り具の前面に取付けることができる。

【0012】即ち、化粧材取付け軒樋吊り具に軒樋と化粧材とを取付けでき、軒樋に化粧材の荷重を負担させることはない。しかも化粧材は上下各縁部分が化粧材係止部に係止できればよく、外周部その他の形状・寸法等は自由に選択することができる。そして化粧材取付け軒樋吊り具は外部下方から見ることはなく外観の優れた軒樋設備を形成することができる。

【0013】

【実施例】以下、この発明に係る化粧材取付け軒樋吊り具を実施例により説明する。

【0014】図1は、この発明の一実施例の斜視図であり、軒樋を吊着けした状態と軒樋と化粧材を取付けた状態とを示す。図2は同実施例の側面図であり、建物に固定し軒樋と化粧材を取付けた状態を示す。図3は化粧材の断面形状の各種例を示す概要図である。

【0015】本実施例の化粧材取付け軒樋吊り具10は、強度に優れる合成樹脂または金属材により形成しており、軒樋1を吊着けすると共に化粧材11を前面に取付ける構成となっている。

【0016】10は実施例の化粧材取付け軒樋吊り具、1は軒樋、2および3は軒樋の上縁部分、5は化粧材取付け軒樋吊り具10を建物に取付ける取付け面部、6は取付け面部5から前方に伸びる支持梁体部、12は支持梁体部6の先端から下方に伸びる化粧材取付け部である。

【0017】そして、軒樋1の外側上縁部分2を支持梁体部6の先端近辺に係止するための軒樋係止突起8が化粧材取付け部12の内側上部に設けてあり、軒樋1の内側上縁部分3を取付け面部5の近辺に係止するための軒樋係止突起9が取付け面部5に設けてある。なお上記係止を強化確実なものとするため支持梁体部6から軒樋係止突起8および軒樋係止突起9方向に向けて突出させた補助係止突起8aおよび補助係止突起9aが形成してある。

【0018】更に、化粧材取付け部12の上端近辺に化粧材11の上側縁部分13を係止する化粧材係止突起14と、化粧材取付け部12の下端近辺に化粧材11の下側縁部分15を係止する化粈材係止突起16とが化粧材取付け部12に設けてあり、化粧材11を化粧材取付け部12の前面に取付ける構成となっている。

【0019】次に、本実施例による軒樋1および化粧材11の取付け方法と効果について説明する。

【0020】まず取付け面部5を建物に固定することにより化粧材取付け軒樋吊り具10を建物に取付ける。次に、軒樋1の両側面の各上縁部分2、3を軒樋係止突起8、9に係止する、同時に補助係止突起8a、9aは軒樋1を押圧して軒樋係止突起8、9への軒樋1の係止を確実なものとし、支持梁体部6の先端近辺と取付け面部5との間に軒樋1を取付することができる。

【0021】そして、化粧材11の上下各縁部分13、15を化粈材係止突起14、16に係止することにより化粈材11を化粈材取付け軒樋吊り具10の前面に取付けることができる。

【0022】即ち、化粈材11は上下各縁部分13、15が化粈材係止突起14、16に係止できればよく、図3に示すように化粈材の外周部その他の形状、寸法等は自由に選択することができる。また、化粈材取付け軒樋吊り具10は外部下方から見えることはなく外観の優れた軒樋設備を容易に形成することができる。

【0023】(他の実施例)図4は、この発明の他の実施例の斜視図であり、軒樋を取付けした状態と軒樋と化粈材を取付けた状態とを示す。図5は同実施例の側面図であり、建物に固定し軒樋と化粈材を取付けた状態を示す。なお前記実施例と同一または相当する部分は同一符号で示し重複説明を省略する。

【0024】本実施例は、化粈材取付け部12の前面が取付けを想定する化粈材11の内面に当接出来る形状となっていることが特徴であり、他の構成は前記実施例に準じているので重複説明を省略する。

【0025】化粈材取付け部12の前面と化粈材11の内面とを当接させるためには、図示のように化粈材取付け部12は前面の殆どの範囲が化粈材11の内面に沿える形状であってもよく、或は前面の一部が当接できるよう突出部分を設けた形状であってもよい。

10 【0026】上記の構成により、本実施例では、化粈材11との組み合わせに前記実施例よりも若干の制約はあるが、デザイン要望に対して実用上は充分に対応でき、しかも化粈材11を薄厚の板材で形成して所望の曲面形状に取付けでき、しかも充分な強度を保持させることができる。例えば壁面補修等で軒樋外面に梯子を立て掛けても化粈材に変形が生じることはない。

【0027】

【発明の効果】以上説明したように、この発明によれば、取付け面部を建物に固定して化粈材取付け軒樋吊り具を建物に取付け、軒樋の両側面の各上縁部分を軒樋係止部に係止することにより、軒樋を取付けすることができる。

【0028】そして、化粈材を化粈材係止部に係止して化粈材取付け軒樋吊り具の前面に容易に取付けることができる。

【0029】即ち、化粈材取付け軒樋吊り具に軒樋と化粈材とを取付けでき、軒樋に化粈材の荷重を負担させることはない。しかも化粈材は上下各縁部分が化粈材係止部に係止できればよく、外周部その他の形状・寸法等は自由に選択することができる。そして化粈材取付け軒樋吊り具は外部下方から見えることはなく外観の優れた軒樋設備を形成することができ、軒樋は通常の規格品を使用し、化粈材は指定のものを前面に取り付けることにより、好みのデザインに容易に対応することができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】一実施例の斜視図である。

【図2】一実施例の側面図である。

【図3】化粈材の断面形状の各種例を示す概要図である。

40 【図4】他の実施例の斜視図である。

【図5】他の実施例の側面図である。

【図6】従来の軒樋吊り金具の断面図である。

【符号の説明】

1 軒樋

2, 3 軒樋の上縁部分

4 従来の軒樋吊り金具

5 取付け面部

6 支持梁体部

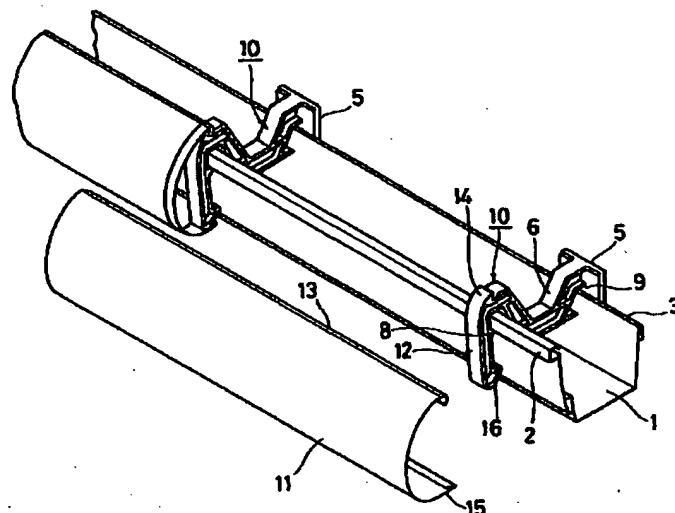
8, 9 軒樋係止突起

50 8a, 9a 補助係止突起

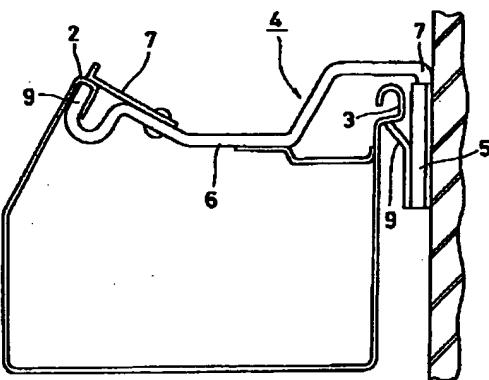
- 5
10 化粧材取付け軒樋吊り具
11 化粧材
12 化粧材取付け部

- 6
13 化粧材の上縁部分
14, 16 化粧材係止突起
15 化粧材の下縁部分

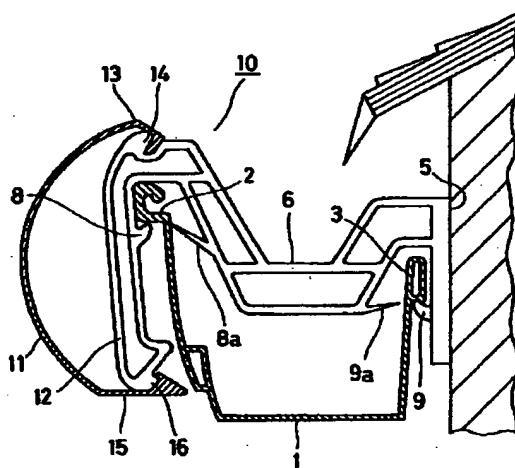
【図1】



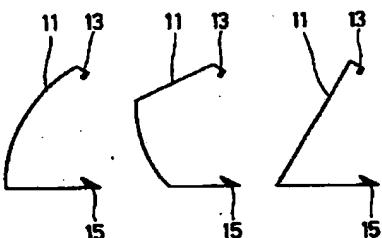
【図6】



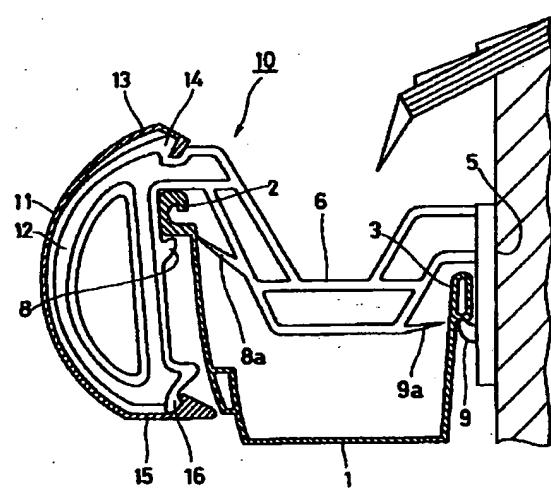
【図2】



【図3】



【図5】



【図4】

